

普段とは違う視点から見た23区、  
知ればもっと面白い!

# クマなく さんぽ



台東区

## 日本のクラシックが育った 場所

旧東京音楽学校奏楽堂は、かつて瀧廉太郎がピアノを弾き、山田耕筰が歌曲を歌い、三浦環が日本初のオペラ公演でデビューを飾った“日本のクラシック発祥の地”として、長きにわたり音楽教育の中心的な役割を担ってきました。その後老朽化から使用が禁止されますが、昭和58年に台東区が譲り受けることになり、昭和62年に現在の地へ移築・復原されて一般公開されるようになりました。その翌年には、日本最古の洋式音楽ホールとして国の重要文化財に指定されています。

## “生きた文化財”が、 リニューアル

その旧奏楽堂が、保存活用工事を終えて、昨年11月に5年半ぶりにリニューアルオープンしました。天井や外壁の耐震補強や、外壁塗装などを経て、旧くて新しい重要文化財として蘇りました。旧奏楽堂のホールには、中央天井をかまぼこ型にすることによる音響等の機能向上や、二重にした壁面や床の間に藁やおがくずを充填することによる遮音効果など、さまざまな工夫が見られました。その設計や建築上の工夫と、明治時代の西洋建築の趣はそのままに、客席を大きくする、防音窓を設置するなどして、演奏を快適に楽しめるようになりました。

## 奏楽堂のシンボル パイプオルガンも復活

旧奏楽堂にある「パイプオルガン」も、保存活用工事に伴い解体・搬出して修理を行いました。このパイプオルガンは、徳川頼貞侯がイギリスから購入し、昭和3年に東京音楽学校に寄贈したもので、コンサート用としては日本最古のパイプオルガンです。1階の展示室には、パイプオルガンのミニチュアモデルが設置されていて、誰でも音を出して楽しむことができます。展示室にはほかに、同校の卒業生である瀧廉太郎や山田耕筰、童謡「赤い靴」「七つの子」「青い眼の人形」などの作曲家として知られる本居長世の楽譜や写真、遺愛品など貴重な音楽資料が展示され、見学することができます。

“日本のクラシック発祥の地”  
リニューアルオープン

## 「旧東京音楽学校奏楽堂」

明治23年に建てられ、東京音楽学校(現・東京藝術大学音楽学部)の講堂兼音楽ホールとして使用されていた奏楽堂。昭和63年に重要文化財に指定され、「旧東京音楽学校奏楽堂」として一般公開されていた同施設が、保存活用工事を経て、再開館しました。



2階ホール「奏楽堂」



奏楽堂外観

パイプオルガンのミニチュアモデル

旧奏楽堂は、当初の目的である音楽家を育てるホールとして、今も藝大生のコンサートなどに使用されています。

### ●藝大生による木曜コンサート

原則として毎月第3木曜日 開演:14:00 入場料:500円

### ●日曜コンサート(一般公開日)

第1・第3日曜日 チェンバロ演奏

第2・第4日曜日 パイプオルガン演奏

演奏時間:14:00と15:00の2回、各30分間 入館料:300円

### ●日曜特別コンサート

第5日曜日 開演:14:00 入場料:500円

### 重要文化財 台東区立 旧東京音楽学校奏楽堂

所在地 台東区上野公園8-43  
公開日 日・火・水曜日(木・金・土曜日はホールの使用がない場合)  
開館時間 9:30 ~ 16:30(最終入場は16:00まで)  
休館日 月曜日(祝休日の場合は、翌平日)、年末年始  
入館料 一般¥300(¥200)、小・中・高校生¥100(¥50)

※( )内は20名以上の団体料金

※当館で開催されたコンサート(「日曜コンサート」を除く)の入場チケットの半券をお持ちいただくと、1回に限り団体料金で入館いただけます。

お問い合わせ 03-3824-1988